

編集後記

JCBAが歩んできた行程を、コミュニティ放送制度施行10年を節目に記録に留めておこうと理事会で決定されたのは平成12年2月でした。そして、11地区からそれぞれに編纂委員、地区委員をご選任いただき、3年余にわたる皆さまのご尽力の結果、今般の10年史完成に至りました。

年史にはさまざまな形態があり得ます。原則に従えば、10年の歴史を「史実」として縦糸に綴るかたちになるわけですが、しかしそれだけでは、開拓に尽力された人たちの「心」が隠れてしまうことが懸念されます。そこで、その補助策として「史想」を横糸に編み込む努力もしてみました。このことが、編纂委員会のコンセプトであった「主張ある年史」の実現に近づくことになれば幸いです。果たして願いが成就したかどうか。逆に「独断と偏見」が点在する結果が生じていれば、それは編纂責任者である私が一身に受けるべき叱責以外の何ものでもありません。

約3年にわたる編纂事業。特に地区編纂委員の皆さまには、基本となる各放送局の資料収集に大変なご苦勞をおかけしました。しかし、そのご努力は、この1冊の10年史の完成にとどまらず、JCBAにとって、加盟各社の個性を理解する上での貴重な資料の集積となりました。この貴重な資料は、JCBAの諸活動を考える上で末永く活かされるものと思います。委員の皆さま方にあらためて御礼申し上げます。

私にとっても、この編纂事業は多くのことに思いを巡らせる良い機会となりました。放送の新しい流れの源となった平成4年のコミュニティ放送制度の施行。その泉の開発に熱心であったことも、10年近くの時を経ると、凡人の常として感性も「感硬変」に陥りがちです。事実、この作業に就いた当初は、私も重度の「感硬変」であったように思います。しかし、編纂作業を進めるにつれ、少しずつ症状が改善に向かい、当初の感性が少しは蘇ったように思われます。「肝硬変」は年齢を重ねるにつれ避け難いものの、心の「感硬変」は、年齢とは関係なく旺盛な好奇心さえ奮い立たせれば改善できる可能性が高い。それを教えてくれた編纂事業でありました。

10年の節目は、即、次の10年のスタートであります。皆さんの心は「感硬変」を患っていませんか。「感硬変」治療に、この10年史が一役買えるものであれば、これ以上の喜びはありません。そこにこそ、編集に携わった全員の想いがあります。

2004年5月12日

JCBA10年史編纂委員長

田中 康弘 (エフエムもりぐち)

Editorial Committee 編纂委員

発行人	大矢良太郎	地区委員	杉田圭夫(北海道)
編纂委員長	田中康弘		清野恭弘(東北)
編纂委員	飯島常治郎		安部啓輔(関東)
	岩田博之		千明公男(関東)
	尾崎哲夫		桑原 實(関東) <small>※平成14年5月ご逝去</small>
	藤村邦香		宮林正男(北陸)
	山本安幸		中村泰典(中国)
			窪田哲夫(四国)
JCBA事務局	功刀るり子		大園 光(九州)
	高田真由美		石川文浩(沖縄)



「日本コミュニティ放送協会10年史」
～未来に広がる地域の情報ステーション～

発行日 平成16年5月12日

Staff 制作協力

編集	石丸敬二 (studioTREK) 大谷貴之 (studioTREK) 藤井賢治 近藤七絵
DTP ライター	西口 博 (J・ギャラリー) 小林桂子 樹田千枝子 丸田鉄平 安道進庫 山田かおり
写真撮影 (P68～77)	赤城耕一
デザイン	武田俊典 (BT2design)
印刷・製本	株式会社みらいプリンティング

※本書の内容の一部または全部を、事前の許可なく
複写・転載・利用することを禁じます。

©2004 JAPAN COMMUNITY BROADCASTING ASSOCIATION. All Rights Reserved.
Printed in Japan